

## **いつも喜び、絶えず祈り、すべてに感謝**

テサロニケ人への手紙第一 5章 16-18節

### **はじめに**

今日は、「収穫感謝礼拝」です。秋の収穫を記念して、このように果物や野菜で講壇を飾っています。しかし現代の私たちの多くは、農業と直接関わる生活ではないので、なかなか秋の収穫を実感することが少ないのが現状です。しかし、こうして一年の中で特別に「感謝の日」を設けることは、とても良いことだと思います。ある人は、このように言いました。「**幸せは持っているものに比例するのではなく、感謝に比例する。自分の人生のすべてのことを感謝だと感じられれば、それに比例して幸せも大きくなる。**」

感謝の心を持つということは、私たちの幸福感と関係があると言います。「感謝」の反対の言葉は何でしょうか。それは、おそらく「不平不満」だと思います。私たちに「不平不満」が多ければ多いほど、私たちは自分が不幸に思えてきます。しかし反対に、「感謝」が多ければ多いほど、自分が幸せに思えてくるのではないのでしょうか。

私たちは今日のこの機会に、秋の収穫を感謝するだけでなく、この一年与えられた神様の恵み、また日々与えられている神様の恵みに、改めて目を向けることで、今まで忘れかけていた感謝の心を取り戻す機会となれば幸いです。

### **1. いつも喜び、絶えず祈り、すべてに感謝する**

さて、先ほど読んだ聖書の箇所には、神様が私たちに望んでおられる三つのことが書かれていました。それは、「**いつも喜んでいなさい」「絶えず祈りなさい」「すべてのことにおいて感謝しなさい**」という三つのことです。

喜ぶこと、祈ること、感謝することは、私たちが普段、自然にできることです。嬉しいことがあれば喜ぶし、困ったことがあれば祈るし、ありがたいことがあれば感謝します。これは、クリスチャンでなくても、どんな人でも自然にできることです。

しかし、いつも喜べるかというと、どうでしょう？嬉しいことが特別にない時、悲しいことがあった時でも、私たちは喜べるのでしょうか？

また、絶えず祈ることができるのでしょうか？特に困ったことがない時、いくら祈っても状況が全く改善されない時でも、私たちは祈り続けることができるのでしょうか？

また、すべての事について、感謝することができるのでしょうか？特にありがたいことがない時、苦しい試練の時、怒りと憎しみに心が満ちている時でも、私たちは感謝することができるのでしょうか？

神様は、喜べる時に喜び、祈れる時に祈り、感謝できる時に感謝することを望んでいる

のではなく、いつも喜び、絶えず祈り、すべての事について感謝することを望んでおられるのです。それはつまり、喜べない時にこそ喜び、祈れない時にこそ祈り、感謝できない時にこそ感謝することを望んでおられるのです。

喜べる時に喜び、祈れる時に祈り、感謝できる時に感謝する、ということは、誰にでもできることです。神様は、できないような状況の中で、喜び、祈り、感謝することを望んでおられるのです。しかし、それは、私たちにとって大変難しいことです。悲しみが深ければ深いほど、苦しみが深ければ深いほど、憎しみや怒りが深ければ深いほど、難しいものです。私たちの実感としては、それは不可能なように思えます。「神様、私にはできません」と言いたくなります。では神様は、私たちにとって不可能なことを望んでおられるのでしょうか。

## **2. キリスト・イエスにあって**

18 節をよく見てみると、神様は、「**キリスト・イエスにあって**」それらのことを私たちに望んでおられるとあります。この「キリスト・イエスにあって」というのは、「イエス様の力によって」、ということでないかと思えます。

神様は私たちに、自分の力で努力して、いつも喜べるようになりなさい、絶えず祈れるようになりなさい、すべての事について感謝できるようになりなさい、と言っているのではありません。イエス様の力によって、いつも喜びなさい、絶えず祈りなさい、すべての事について感謝しなさいと言われるのです。

イエス様は私たちに、喜べない時でも喜びを与えてくださいます。祈れない時でも祈る言葉を与えてくださいます。感謝できない時でも感謝の心を与えてくださいます。イエス様にはそのような力があります。そのイエス様の力によって、喜びなさい、祈りなさい、感謝しなさいと言われるのです。

## **3. キリスト・イエスにある喜び・祈り・感謝**

では、イエス様の力によって喜び、祈り、感謝するとは、具体的にどういうことでしょうか。イエス様は、私たちに何をもちたしてくださるのでしょうか。

第一に、イエス様は私たちに、どんな状況でも揺るがない喜びを与えてくださいます。イエス様は弟子たちに、こう言われました。「**霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい**」(ルカ 10:20)。私たちは、何かを成し遂げた時に喜びます。しかしイエス様は、何かを成し遂げた時の喜びを私たちの喜びの土台とするのではなく、私たちの名が天に書き記されていることを、私たちの喜びの土台とするようにと言われます。私たちには良い時も悪い時もあります。何かを成し遂げられる時も、失敗する時もあります。そのような不安定なものを、私たちの喜びの土台とするのではなく、どんな状況でも揺るがないものを、私たちの喜びの土台としなさいと言われます。それが、「私たちの名が天に書き記されている」ということです。これは、

天国に行くことができる、永遠のいのちを与えられているということです。

天国とは、どんな所でしょうか。天国とは、神様とイエス様がおられる所で、あらゆる労苦や悲しみから解放されて全き安らぎを与えられる所です。永遠のいのちとは、何でしょうか。それは肉体の死を経験しないことではありません。神様と永遠に共にいることです。聖書では、神様と共にいることを「いのち」と呼び、神様から離れていることを「死」と呼びます。イエス様を信じる人は誰でも、天国に行くことができ、永遠のいのちを与えられます。神様と共に生きることができます。イエス様は、私たちが天国に行くことができるため、永遠のいのちを与えられるため、神様と共に生きることができたために、十字架に架かってくださいました。イエス様は、私たちのすべての罪を償って、私たちの罪が赦されるため、十字架に架かってくださったのです。あの十字架は、私たちの罪のための償いの死、身代わりの死だったのです。イエス様は十字架の死の後、三日目によみがえって天に昇られました。そして、今もご自身の霊である聖霊を通して、私たちに力を与え、助けてくださいます。

この恵みは、決して揺るぐことはありません。私たちが喜べない時も、祈れない時でも、感謝できない時でも、決して奪われない恵みです。いつでも私たちのもとから離れることのない恵みです。この恵みがあるからこそ、いつも喜ぶことができるのです。

第二に、イエス様は私たちに、どんな出来事も必ず私たちの益となるという希望を与えてくださいました。イエス様を通して私たちは、神様と共に生きることができるようになりました。では神様と共に生きるとは、具体的にどういうことでしょうか。その一つは、神様が私たちと共にいて、私たちに起こるすべての出来事を、私たちの益となるように導いてくださるということです。聖書に、このようにあります。「**神を愛する人たち、すなわち、神のご計画に従って召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています**」(ローマ 8:28)。

私たちの人生には、喜べない出来事も、祈りの言葉を失う出来事も、感謝できない出来事も起こります。しかしそのような中でも、私たちは、この出来事が空しく終わるのではなく、必ず私たちの益となる、神様がそのように導き、マイナスをプラスに変えてくださるという希望を持つことができるのです。

聖書には、こうあります。「**だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。…私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません**」(ローマ 8:35、39)。

私たちに起こるすべての出来事は、神様の御手の中にあります。神様の愛の中にあります。ですから、すべての出来事には意味と目的があります。私たちを愛するゆえの、神様の意味と目的があります。

ですから、私たちは、たとえ喜べない出来事、祈りの言葉を失う出来事、感謝できない出来事の中でも、希望を持つことができるのです。神様の未来の祝福を信じて、先取りし

て喜び、祈り、感謝して受け止めることができるのです。

私たちには、どんな状況の中でも決して揺るがない恵みを与えられています。そして神様が必ず、どんな状況をも益としてくださるという希望を与えられています。これらの恵みと希望を私たちにもたらしてくださったのが、イエス様です。イエス様の力によって、喜び、祈り、感謝するということは、イエス様がもたらしてくださった恵みと希望を抱いて、どんな状況の中でも喜び、祈り、感謝するということではないでしょうか。

### **おわりに**

今日は、「収穫感謝礼拝」です。作物の収穫は、自然に左右されます。雨が降らなかったり、台風などの大雨によって、収穫は左右されます。私たちの人生も、思い通りにはいきません。良い時もあれば悪い時もあります。病気になったり、愛する人を失ったり、家族や仕事やあらゆる人間関係で、次から次へと問題が起こります。そのような中で、イエス様への信仰は、どんな状況でも揺るがない恵み、どんな状況の中でも必ず益となるという希望を与えてくれます。この信仰によって私たちは、どんな状況の中でも、喜びと祈りと感謝を奪われることは決してないのです。